

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
東京電子専門学校	昭和51年 10月1日	新休 能士	〒170-8418 東京都豊島区東池袋3-6-1 (電話) 03-3982-3131			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人電波学園	昭和30年 9月27日	山口 広泰	〒170-8418 東京都豊島区東池袋3-6-1 (電話) 03-3982-3131			
目 的	3年間という学習期間を生かし、ITの知識についてより幅広く・深く学習出来るカリキュラムを構成し、プログラムだけでなくネットワークやデータベース、セキュリティなどにも精通したより高度な知識を持つ人材の育成を目指す					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	工業専門課程	情報処理科3年制	3年(昼)	2550単位時間 (143単位)	平成8年文部科学大臣告示第200号	—
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		1020単位時間 (68単位)	450単位時間 (30単位)	単位時間 (又は単位)	1650単位時間 (84.5単位)	単位時間 (単位)
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		77人	9人	18人	27人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 評価基準は80点以上をA, 70点以上79点未満をB, 60点以上69点未満をC, 59点以下を不可とする。 成績評価は試験、平常の成績、実習等の成果物により行う。	

長期休み	<p>■学年始め：4月1日</p> <p>■夏季：7月20日～8月31日</p> <p>■冬季：12月20日～1月7日</p> <p>■学年末：3月31日</p>	卒業・進級条件	<p>■卒業条件</p> <p>教務で定めた必修科目を修得し(成績評価がC以上)、必修科目、選択必修科目を含めた修得科目(成績評価がC以上)の総時間数が2550時間以上、かつ取得単位数が144単位以上取得した者</p> <p>■進級条件</p> <p>教務で定めた必修科目を修得し(成績評価がC以上)、必修科目、選択必修科目を含めた修得科目(成績評価がC以上)の総時間数が教務で定めた単位数を超えた者</p>
生徒指導	<p>■クラス担任制 (有・無)</p> <p>■長期欠席者への指導等の対応</p> <p>保護者との連携、個人面談、電話・メール連絡、補講</p> <p>心理カウンセラーのカウンセリング</p>	課外活動	<p>■課外活動の種類</p> <p>企業との勉強会、学内セミナー、学園祭</p> <p>■サークル活動 (有・無)</p>
就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等</p> <p>IT業界、システムインテグレータ等</p> <p>■就職率<sup>※1</sup> 100%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合<sup>※2</sup> 96%</p> <p>■その他(任意)</p> <p>(平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)</p>	主な資格・検定	<p>応用情報技術者、基本情報技術者、ITパスポート、CompTIA A+、MTA、Oracleマスタ、CCNA、LPIC、ドットコムマスタ、MOS</p>
中途退学の現状	<p>■中途退学者 7名 ■中退率 8%</p> <p>平成28年4月1日在学者87名(平成28年4月入学者を含む)</p> <p>平成29年3月31日在学者77名(平成29年3月卒業生を含む)</p> <p>※他学科からの転科生、他学科への転科生有り</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>経済的理由、体調不良、進路変更</p> <p>■中退防止のための取組</p> <p>保護者との連携、個人面談、三者面談、電話・メール連絡、心理カウンセラーのカウンセリング、学費のための相談員配置、補講実施</p>		
ホームページ	URL: <a href="http://www.tokyo-ec.ac.jp">http://www.tokyo-ec.ac.jp</a>		

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

IT業界は特に技術進化の激しい業界であるが故に、現場に関わる技術者や企業研修を行っている企業の講師が授業を行う事で、最新技術や現在需要の高い技術の習得が出来る体制を取っている。また、それらの科目については共同でシラバス開発を行ったり、授業内容や新規科目の開設についても技術者や企業の意見を柔軟に取り入れるようにしている。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名 前	所 属
板見谷 剛史	CompTIA日本支局 シニアコンサルタント
山崎 洋一	(株) クリエイト工房 取締役
砂賀 勝己	東京電子専門学校 情報学部学部長
石井 眞木子	東京電子専門学校 情報学部教員
坂本 知美	東京電子専門学校 情報学部教員
山口 勝広	東京電子専門学校 学園本部 副本部長
塚田 敏彦	東京電子専門学校 副校長
山口 真弘	東京電子専門学校 学園本部

### (開催日時)

平成27年度-第1回 平成27年9月29日 10:00~11:00

平成27年度-第2回 平成28年3月2日 9:00~12:50 (制作発表会見学、意見交換会等含む)

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

・IT業界は特に技術進化の激しい業界であるが故に、現場に関わる技術者や企業研修を行っている企業の講師が授業を行うことで、最新技術や現在需要の高い技術の習得が出来るようにしている。また、それらの科目については共同でシラバス開発を行ったり、授業内容や新規科目の開設についても技術者や企業の意見を柔軟に取り入れる。

・企業研修と同じ内容の授業を行う事で、実務に近いより実践的な内容の技術を習得できる。

・IT技術の習得だけではなく、社会人として必要なスキル(コミュニケーション能力など)についても企業の立場からという視点で学習することも重視する。

・授業だけでは得られない知識の習得を目的とし、不定期に企業や業界団体の方によるセミナーや講演会、イベントを開催する。これについては課外活動の一環として実施し、単位認定は行わない。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ハードウェアⅡ	<p>・本校では最新技術や応用力も大事だが、その元となるITの基礎力をしっかりと身につけることが非常に重要と考えており、実際学校評価委員会等、各種委員会でも企業の方などから同じことの指摘を受けることが多い。</p> <p>・このような背景からハードウェアの分野におけるIT基礎力に関する内容の技術を、実際に企業・技術者目線で講義をしてもらい、実務にどう関わり何が必要かを講義の中に取り入れてもらうことを目的として企業・技術者による授業を実施している。</p> <p>・本分野は国家資格であるITパスポート、基本情報技術者試験の範囲ともなっており、その国家資格の重要性も企業目線で学生に伝え、資格取得の目標とさせるよう指導を行う。</p>	(株)ITATI

<p>CompTIA A+対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITの基礎となるハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの知識について、CompTIA A+の内容を題材に学習する。</li> <li>・CompTIAは企業の人が企業で必要となる知識を問うために作問を行っている試験であるため、この勉強はイコール企業で必要な知識の習得になる。</li> <li>・資格取得によりインターンシップの機会が増えるなど、その後の学習意欲を高めることも目的とする。</li> <li>・カリキュラムやコンテンツ開発を共同で行い、それを元とした授業を行っている。</li> </ul>	<p>(株)ウチダ人材開発センタ</p>
-------------------------	--	----------------------

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

- ・民間企業での研修(派遣型)を通して、民間企業の現状を知り、必要とされる人材等についての動向を得るなど、あるいは外部のセミナー等に参加をし、現在の技術動向の習得と合わせ、外部で無いと分からない、体感できないことに対して積極的に取り組むよう努めている。
- ・必要に応じ、企業から講師を招いて最新技術や需要の高い技術に関連するセミナーを開催する。
- ・学期ごとに学生による「授業アンケート」を実施し、校長室より個々の教員に結果を示した上で改善点を指摘し、よりよい授業となるよう改良・改善に努めさせている。また、「公開授業」という形で、評価の高かった教員の授業を参観させ、個々の授業の参考とするようにしている。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名 前	所 属
岡本 真理子	株式会社エスキャリア
喜多村 貞一	エーアイテクノロジー株式会社 代表取締役社長 本校卒業生
松金 隆夫	医療法人財団 松圓会
吉田 隆	株式会社サンリツ

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.tokyo-ec.ac.jp/campus/data/>

### 5. 情報提供

#### (情報提供の方法)

URL: <http://www.tokyo-ec.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程情報処理科3年制) 平成29年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			C言語演習 I	C言語のプログラムを演習を通して作成し、学習する	1前	60	3			○
	○		C言語演習 II	C言語のプログラムを演習を通して作成し、学習する	1後	60	3			○
○			C言語文法 I	C言語でのプログラミングの基礎から応用、より実践的なプログラミングの手法について学習する	1前	30	2	○		
	○		C言語文法 II	C言語でのプログラミングの基礎から応用、より実践的なプログラミングの手法について学習する	1後	30	2	○		
○			Java演習 I	Javaによるプログラムを演習を通して作成し、学習する	2前	60	3			○
○			Java演習 II	Javaによるプログラムを演習を通して作成し、学習する	2後	60	3			○
	○		Java演習 III	Javaによるプログラムを演習を通して作成し、学習する	3前	60	3			○
○			Java文法 I	Javaによるプログラミング技法、オブジェクト指向の概念について学習する	2前	30	2	○		
	○		Java文法 II	Javaによるプログラミング技法、オブジェクト指向の概念について学習する	2後	30	2	○		
○			Webプログラミング I	Webサーバ上で動作するPHP言語による動的なページの作成手法について学習する。また、サーバ側で行われるデータベース処理の手法についても学習する	3前	60	3			○
	○		Webプログラミング II	Webサーバ上で動作するPHP言語による動的なページの作成手法について学習する。また、サーバ側で行われるデータベース処理の手法についても学習する	3後	30	1.5			○
○			モバイルアプリケーション開発	スマートフォン・タブレット向けプログラムの作成方法について学習する	3前	60	3			○
	○		.netプログラミング	ASP.netの開発手法について学習する	3後	60	3			○
	○		CASL II演習	基本情報技術者試験に出題されるCASL IIのプログラムを、演習を通して作成し、学習する。	1後	30	1.5			○
	○		CASL II文法	基本情報技術者試験に出題されるCASL IIの文法について学習する。試験に出題されるプログラムのロジックが解析できるまでを目標とする。	1後	30	2	○		

○			UML I	UMLで使われる用語・概念・表記法に対する知識とモデルの意味を理解する能力を身に付ける	2 前	30	2	△	○	
	○		UML II	UMLで使われる用語・概念・表記法に対する知識とモデルの意味を理解する能力を身に付ける	2 後	30	2	△	○	
○			Oracle I	Oracleデータベースのインストールから設定、SQL文などについて学習する	2 前	60	3			○
○			Oracle II	Oracleデータベースのインストールから設定、SQL文などについて学習する	2 後	60	3			○
	○		Oracle III	Oracleデータベースのインストールから設定、SQL文などについて学習する	3 前	30	1.5	△		○
○			DB 設計演習	データベースの設計手法について学習する。また実際に設計したデータベースを構築し、管理する手法についても学習する	3 後	60	3			○
○			CCNA I	Cisco社製品のルーター・LANスイッチなどのコマンドなどと、これを用いたネットワーク構築手法などについて学習する	3 前	30	1.5			○
	○		CCNA II	Cisco社製品のルーター・LANスイッチなどのコマンドなどと、これを用いたネットワーク構築手法などについて学習する	3 後	30	1.5			○
○			UNIX I	UNIXの概要から、操作方法、コマンドについて、繰り返し演習して学習する	2 前	60	3	△		○
○			UNIX II	UNIXの概要から、操作方法、コマンドについて、繰り返し演習して学習する	2 後	60	3	△		○
	○		UNIX III	UNIXの概要から、操作方法、コマンドについて、繰り返し演習して学習する	3 前	30	1.5	△		○
○			サーバ構築	ドメイン構築やDNS、DHCP、Webなど各種サーバの構築手法、PHPなどのCGI、SQLサーバの構築について学習する	3 前	60	3			○
○			仮想化/クラウドコンピューティング	仮想化/クラウドの概念とその技術について学習する。演習では実際のクラウドサービスを用いた課題を行う事で、より実践的な内容についての習得を目指す	3 前	30	2	○		△
○			Web 詳論	インターネットビジネス、サイト制作のプロジェクトマネジメント、サイトの企画・設計、デザイン・実装など、実例を元にしながらか理解が深まるよう講義する。また、実際にサイトを制作して理解度を深める	3 後	60	3			○
○			卒業制作	総合的な演習として各自またはグループでテーマを設定し、設計（企画）から制作、成果発表を行う	3 後	120	6			○

○		アルゴリズムⅠ	フローチャートや構造化チャートを使って、プログラミングの考え方や追跡（トレース）手法を学ぶ。さらに、代表的なアルゴリズムについても学習する	1 前	30	2	△	○	
	○	アルゴリズムⅡ	フローチャートや構造化チャートを使って、プログラミングの考え方や追跡（トレース）手法を学ぶ。さらに、代表的なアルゴリズムについても学習する	1 前	30	2	△	○	
	○	アルゴリズムⅢ	フローチャートや構造化チャートを使って、プログラミングの考え方や追跡（トレース）手法を学ぶ。さらに、代表的なアルゴリズムについても学習する。	1 後	30	2	△	○	
	○	システム設計	システムの計画、設計、開発、テストおよび運用までの各工程における作業内容、およびデータを中心とする設計技法を学習する	2 前	30	2	○		
○		セキュリティⅠ	ウイルスやハッカー対策、暗号化通信の仕組みなど、ネットワークの安全な利用に欠かせないセキュリティ管理手法について学習する	1 後	30	2	○		
	○	セキュリティⅡ	ウイルスやハッカー対策、暗号化通信の仕組みなど、ネットワークの安全な利用に欠かせないセキュリティ管理手法について学習する	2 前	30	2	○		
○		ソフトウェアⅠ	コンピュータ・パソコンの基本的な利用技術（ソフトウェア）の知識を学習する	1 前	30	2	○		
	○	ソフトウェアⅡ	コンピュータ・パソコンの基本的な利用技術（ソフトウェア）の知識を学習する	1 前	30	2	○		
○		ハードウェアⅠ	コンピュータ・パソコンの基本的な原理（ハードウェア）の知識を学習する	1 前	30	2	○		
	○	ハードウェアⅡ	コンピュータ・パソコンの基本的な原理（ハードウェア）の知識を学習する	1 前	30	2	○		
○		データベース	データベースの概念とリレーショナルデータベースの操作、SQL言語について学習する	1 後	30	2	○		
○		ネットワークⅠ	LANやWAN、ネットワークサービス、TCP/IPについて学習する	1 前	30	2	○		
	○	ネットワークⅡ	LANやWAN、ネットワークサービス、TCP/IPについて学習する	1 後	30	2	○		
○		インターネットテクノロジーⅠ	インターネットの仕組みやWeb、メール、ネット上のサービス、プロバイダ、関連法規について学習する。ドットコムマスター取得に必要なスキルを習得する	2 前	30	2	○		
	○	インターネットテクノロジーⅡ	インターネットの仕組みやWeb、メール、ネット上のサービス、プロバイダ、関連法規について学習する。ドットコムマスター取得に必要なスキルを習得する	2 後	30	2	○		



○		ホームページ I	Webページの基本となるHTML・CSSを習得しながら、Webページ的设计方法、スタイルシートの適用方法を学ぶ	1前	60	3			○
	○	ホームページ II	Webページの基本となるHTML・CSSを習得しながら、Webページ的设计方法、スタイルシートの適用方法を学ぶ	2前	30	1.5			○
○		XML	様々な文書フォーマットとして用いられているXMLの、言語仕様からXMLデータ処理を行うアプリケーションの開発までを学習する	2前	30	2		○	
○		ITリテラシー	「ITを活用した問題解決」をテーマとし、SEとして働くために必要な、業務知識の基礎と、問題を解決するためにITで何ができるか考える力を身に着ける。	3前	30	2	△	○	
○		表計算入門	マイクロソフトExcelを使用して表計算ソフトの基本的な操作方法、利用方法を学び、オフィススペシャリストの取得を目指す。また、基本情報技術者の午後問題の対策も行う	1前	60	3			○
○		文書編集入門	マイクロソフトWordを使用してワープロソフトの基本的な操作方法、利用方法を学び、オフィススペシャリストの取得を目指す	1前	30	1.5			○
○		経営工学 I	シミュレーション、待ち行列の理論、仕事の順序づけ、線形計画法について統計の分野から、実用上必要となる基礎知識について理解させる。また、OR的なアプローチやモデル化の方法、最適解の求め方などを習得する	3前	30	2	○	△	
○		経営工学 II	シミュレーション、待ち行列の理論、仕事の順序づけ、線形計画法について統計の分野から、実用上必要となる基礎知識について理解させる。また、OR的なアプローチやモデル化の方法、最適解の求め方などを習得する	3後	30	2	○	△	
○		CompTIA A+対策	CompTIA A+の内容を元に、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなどITの基礎技術について学習する。また、CompTIA A+の取得を目指しそのための対策も行う	1後	60	4	△		○
○		基本情報午前対策	基本情報技術者の午前試験に関する対策を行う	1後	30	2	△	○	
○		基本情報午後対策	基本情報技術者の午後試験に関する対策を行う	1後	30	2	△	○	
○		国家試験午前対策 I	基本情報技術者や応用情報などの国家資格の総合対策(午前)を行う	2前	30	2	△	○	

	○		国家試験午前対策Ⅱ	基本情報技術者や応用情報などの国家資格の総合対策(午前)を行う	2後	30	2	△	○	
○			国家試験午後対策Ⅰ	基本情報技術者や応用情報などの国家資格の総合対策(午後)を行う	2前	30	2	△	○	
	○		国家試験午後対策Ⅱ	基本情報技術者や応用情報などの国家資格の総合対策(午後)を行う	2後	30	2	△	○	
○			基礎数学Ⅰ	行列, 確率統計, 関数, 数列, 図形などのプログラムを作成するのに必要となる最低限の数学の知識について学習する	1前	30	2	○		
	○		基礎数学Ⅱ	行列, 確率統計, 関数, 数列, 図形などのプログラムを作成するのに必要となる最低限の数学の知識について学習する	1後	30	2	○		
	○		基礎数学Ⅲ	行列, 確率統計, 関数, 数列, 図形などのプログラムを作成するのに必要となる最低限の数学の知識について学習する	2前	30	2	○		
○			基礎英語Ⅰ	情報処理用語が読める程度の基礎的な英語力を身につけるとともに、電子メールなどコミュニケーションに役立つ基礎的な英語力も養う	1後	30	2	○		
	○		基礎英語Ⅱ	情報処理用語が読める程度の基礎的な英語力を身につけるとともに、電子メールなどコミュニケーションに役立つ基礎的な英語力も養う	2前	30	2	○		
○			表現技法Ⅰ	正しい文章を作成するための基本的な知識を習得してから実務に役立つ文章作成能力を身につけます	2前	30	2	○		
	○		表現技法Ⅱ	正しい文章を作成するための基本的な知識を習得してから実務に役立つ文章作成能力を身につける	2後	30	2	○		
○			一般常識Ⅰ	社会人として必要な一般知識(漢字の読み書き、計算、文化など日常的な教養)を身につけるとともに、就職対策としてSPIなども練習する	2後	30	2	○		
○			一般常識Ⅱ	社会人として必要な一般知識(漢字の読み書き、計算、文化など日常的な教養)を身につけるとともに、就職対策としてSPIなども練習する	3前	30	2	○		
○			関連法規Ⅰ	コンピュータ業界で必要とされる著作権や個人情報保護法など関連する法律知識を身につける	1前	30	2	○		
	○		関連法規Ⅱ	コンピュータ業界で必要とされる著作権や個人情報保護法など関連する法律知識を身につける	1後	30	2	○		
○			♪ 加シキソ	論理的な問題解決手法が身につくよう、様々な事例を通して練習する。グループワークを多く取り入れ、就職に役立つコミュニケーション能力の向上も目指す	2前	30	2	△	○	

○			プレゼンテーション	PowerPoint の使用方法、プレゼンテーションの資料作成の方法、発表の手法などについて学習する	2 後	30	1.5			○
○			就職対策Ⅰ	履歴書の書き方や会社訪問の際の手順、注意事項、面接対策など就職活動に必要な、かつ役立つことを学習する	2 前	30	2	△	○	
	○		就職対策Ⅱ	履歴書の書き方や会社訪問の際の手順、注意事項、面接対策など就職活動に必要な、かつ役立つことを学習する	2 後	30	2	△	○	
○			ビジスマン	ビジネス社会での電子メールの書き方、名刺の交換、送付状や手紙の書き方などビジネス社会で必要となることを習得する	3 前	30	2	△	○	
○			簿記Ⅰ	損益計算書、貸借対照表、財務諸表、会社組織の仕組み、株式など企業会計や簿記について学習する	2 後	30	2	○		
	○		簿記Ⅱ	損益計算書、貸借対照表、財務諸表、会社組織の仕組み、株式など企業会計や簿記について学習する	3 前	30	2	○		
	○		経営	国家資格である基本情報技術者の経営・マネジメントの内容について学習する	1 後	30	2	○		
	○		課外活動Ⅰ	各種セミナー、研修会、企業研修など	適 宜	15	1			○
	○		課外活動Ⅱ	各種セミナー、研修会、企業研修など	適 宜	15	1			○
○			体育Ⅰ	ハイキング、学園祭	1	60	3			○
	○		体育Ⅱ	ハイキング、学園祭	2	30	1.5			○
	○		体育Ⅲ	ハイキング、学園祭	3	30	1.5			○